

芸振



大分県芸術文化振興会議

No. 100

平成9.3

もくじ

「芸振」第100号発刊記念に寄せて …… 1
第13回国民文化祭・おおいた'98 開催地マップ …… 2～3
第32回大分県芸術祭賞 受賞者の喜び …… 4
芸振100号発行記念 芸振No1～No100巻頭言執筆者一覧… 5～7
芸振100号発行にあたって …… 8～9
事務局だより …… 10

■発行人：仲町謙吉 ■編集人：後藤一郎

(題字 梶山)



「芸振」第100号発刊記念に寄せて

大分県芸術文化振興会議会長 仲町謙吉

大分県芸術文化振興会議の情報誌として多くの方々に親しまれてきた「芸振」が第100号の記念の刊行を迎えることができたことは誠に意義あることである。今日まで心よく寄稿いただいた方々や、関係者の献身的な努力に衷心より敬意を表したい。

創刊は、昭和45年（米田会長）でほぼ季刊であった。その折々の県芸術文化振興会議の役割や、課題・県芸術祭の成果・加盟団体の活動等々で詳細に報じられ、大分県芸術文化振興会議の活動内容がよくわかった。その歩みの中で幾つかの重要事項が見られる。

昭和60年の平松知事の提唱された「大分県文化創造元年」は、大きく大分文化を進展することとなった。「21世紀豊の国文化創造懇話会」つづいて「豊の国文化創造県民会議」等、この提言により、国民文化祭誘致がすすめられた。

次に大分県芸術文化基金の完成である。（挾間会長）昭和54年から6年間にわたる募金活動と、県費補助により基金が完成した。この運用金による活動が、知事の提唱と同じ昭和60年完全実施で始められた。県内に加盟団体を派遣し鑑賞の機会を地域に提供した。又加盟団体の補助や海外研修の補助等大分県文化活動は活力に溢れ華開く想いであった。

先にも述べたが、国民文化祭の誘致運動が本決定となり平成10年「第13回国民文化祭・おおいた'98」テーマ「21世紀へ文化をおこす豊の風」と着々と準備が進められ、主会場も「オアシス広場21」に新県立文化ホール等急テンポな建設が進行されている。

一方大分県芸術文化基金は、金利最低の時、運用金も少なくなったが、県の配慮や会員の協力により、国民文化祭に向けての研さんも乗り越えられる力強さを感じている。

「芸振」第100号発刊を契機に一層の充実を計り益々その役割を果たすことを祈る。



桑原賢治（県美協会員）

第13回国民文化祭・おおいた'98

平成10年10月17日(土)～10月25日(日)

「第13回国民文化祭・お

1 大分市

- 17日(土) オープニングパレード
〔大分市街〕
- 17日(土) 開会式・オープニングフェスティバル
〔県民文化ホール大ホール(仮称)〕
- 17日(土)～25日(日)
美術展(日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真等)
〔県立芸術会館・旧県立図書館他〕
- 18日(日) オーケストラの祭典
〔県民文化ホール大ホール(仮称)〕
- 18日(日) マーチング・パトーンフェスティバル
〔県立総合体育館〕
- 19日(月) 演劇祭(演劇)
〔県立芸術会館文化ホール〕
- 20日(火) 日本舞踊の祭典
〔県民文化ホール大ホール(仮称)〕
- 21日(水) オペラ
〔県民文化ホール中ホール(仮称)〕
- 21日(水) 演劇祭
〔県民文化ホール大ホール(仮称)〕
- 22日(木)～23日(金)
能楽の祭典
〔平和市民公園能楽堂〕
- 23日(金) オペラ
〔県民文化ホール大ホール(仮称)〕
- 24日(土) 邦楽の祭典
〔県民文化ホール中ホール(仮称)〕
- 24日(土) バレエの祭典
〔県立芸術会館文化ホール〕
- 25日(日) シンポジウム
アジア文化のインターネット
〔大分文化会館〕
- 25日(日) 閉会式・グランドフィナーレ
〔県民文化ホール大ホール(仮称)〕

2 別府市

- 17日(土)～25日(日)
アジア竹文化の祭典(一般の部)
〔別府市竹細工伝統産業会館他〕
- 18日(日) 全国吟詠剣詩舞道祭
〔ビーコンプラザコンベンションホール〕
- 18日(日)～25日(日)
生活文化総合フェスティバル
第2会場(衣食住系)
〔ビーコンプラザレセプションホール他〕
- 19日(月)～24日(土)
アジア映像フェスティバル
〔ビーコンプラザ中会議室他〕
- 19日(月)～25日(日)
マルチメディア・音と光フェスティバル
〔ビーコンプラザコンベンションホール他〕
- 24日(土)～25日(日)
室内楽フェスティバル
〔ビーコンプラザフィルハーモニーホール〕

3 中津市

- 18日(日) アジア若者音楽フェスティバル
〔中津文化会館〕
- 23日(金) シンポジウム
日本の文化を開いた先人たち
〔中津文化会館〕

4 日田市

- 18日(日) 吹奏楽の祭典
〔日田市民会館・日田市総合体育館〕
- 24日(土) 文芸祭(俳句大会)〔日田市民会館〕
- 25日(日) 文芸祭(合同大会)〔日田市民会館〕

5 佐伯市

- 18日(日) 社交ダンスの集い
〔佐伯市民体育館〕

6 臼杵市

- 18日(日)～20日(火)
南窓文化フェスティバル
〔臼杵港公共埠頭他〕
- 24日(土) 月光の祭典
〔臼杵石仏前特設ステージ〕

7 津久見市

- 18日(日) 合唱の祭典〔津久見市民会館〕

8 竹田市

- 24日(土) 民謡・民舞の祭典(一般の部)
〔竹田文化会館〕

9 豊後高田市

- 21日(水) 全国方言まるだし弁論大会
〔豊後高田市中央公民館〕

10 杵築市

- 18日(日)～24日(土)
生活文化総合フェスティバル
第1会場(生活芸術系)
〔きつき城下町資料館・武家屋敷他〕
- 18日(日)～19日(月)
ロボットフェスティバル
〔杵築市健康福祉センター他〕

11 宇佐市

- 23日(金)～25日(日)
八幡フェスティバル
〔宇佐文化会館ウサノピア他〕



「おいた98」開催地マップ



- 21 宇目町**
20日(火) 民謡・民舞の祭典(子守唄の部)
〔宇目町農村環境改善センター〕
- 22 蒲江町**
23日(金)～25日(日)
海の文化フェスティバル
〔県マリノカルチャーセンター他〕
- 23 野津町**
21日(水) 演劇祭(民話劇)
〔野津町中央公民館〕
- 24 三重町**
19日(月) お話コンクール
〔大野広域総合文化センター(仮称)〕
- 25 朝地町**
18日(日)～24日(土)
アジア彫刻・陶芸の祭典
〔朝地町朝倉文夫記念館他〕
- 26 大野町**
17日(土)～25日(日)
美術展(水墨画)
〔大野町美術館(仮称)他〕
- 27 久住町**
23日(金) 郷土芸能フェスティバル
〔久住町中央公民館〕
- 28 直入町**
22日(木) シンポジウム
温泉と文化
〔直入町体育館〕
- 29 玖珠町**
24日(土)～25日(日)
民謡と人形劇の祭典(児童の部)
〔玖珠町わらべの館他〕
お話フェスティバル子供大会
〔玖珠町中央公民館他〕
- 30 大山町**
24日(土) 文芸祭(短歌大会)
〔大山町文化センター〕
- 31 山国町**
24日(土) 文芸祭(連句大会)
〔コアやまくイベントホール〕
- 32 安心院町**
22日(木)～25日(日)
生活文化総合フェスティバル
第1会場(鏡絵)
〔安心院町文化会館他〕
24日(土)～25日(日)
民謡と人形劇の祭典(一般の部)
〔安心院町文化会館〕

- 12 国東町**
19日(月) シンポジウム 石と文化
〔国東町農村環境改善センター〕
18日(日)～24日(土)
生活文化総合フェスティバル
第3会場(国民音楽系)
〔国東町福祉センター他〕
- 13 武蔵町**
24日(土) 文芸祭(現代詩大会)
〔武蔵町中央公民館〕
- 14 日出町**
18日(日)～19日(月)
アジア竹文化の祭典(児童の部)
〔県一村一品クラフト公園他〕
- 15 山香町**
18日(日)～24日(土)
生活文化総合フェスティバル
第1会場(生活芸術系)
〔山香町中央公民館他〕
第3会場(国民音楽系)
〔山香町民グラウンド他〕

- 16 野津原町**
22日(木)～24日(土)
香りの文化フェスティバル
〔おおいの香りの森博物館他〕
- 17 庄内町**
21日(水) 神楽フェスティバル
〔庄内町多目的野外ステージ(神楽殿)〕
- 18 湯布院町**
24日(土) 文化祭(川柳大会)
〔湯布院町中央公民館〕
- 19 佐賀関町**
23日(金)～25日(日)
海の文化フェスティバル
〔佐賀関港広場他〕
- 20 弥生町**
22日(木) 落語競演会
〔弥生町民会館〕

第32回大分県芸術祭賞 受賞者の喜び



民踊の継承普及に努力

日本民謡研究会九州支部
代表 田近 豊次

平成8年度第32回大分県芸術祭賞を受賞し会員一同身にあまる光栄と感銘いたしております。昭和48年に大分県芸術文化振興会議の舞踊部門に団体会員として入会、毎年芸術祭開催期間中に参加行事として、民踊まつりを開催して参りました。第32回の芸術祭開幕行事の担当が決定以来、県教育庁文化課をはじめ芸術文化振興会議御当局・豊後高田市実行委員会の皆様方の絶大なる御支援を賜り開幕公演は無事終了することができました。

地元の草地踊り保存会の特別出演で錦上花をそえていただき感謝の念でいっぱいです。これもひとえに皆様方の民踊に対する深い御理解と御厚情の賜と深く感謝いたしております。この賞も当研究会会員各位の総力をあげての「踊りの輪を人の和に」を合言葉に精進した成果に対し授けられたものと受けとめ、あらためて会員一同感激し誠意を表する次第でございます。

この結集した力を1997年プレ国民文化祭1998年(平成10年)の国民文化祭に向けて更に精進を重ね、県内外の伝承民踊の継承と普及に努力し、特に大分県芸能文化の向上に寄与すべく会員一同決意をあらたにいたしております。

まことにありがとうございました。



県芸術祭賞を受賞して

新潮流の会
代表 山崎 芳直

“ゆたかな絵画創造”を目指して1979年に組織された「潮流展」(6回)をベースに、1986年に「新潮流の会」が結成され、以降「新潮流展」(10回)「現代美術の潮流展'96」と、通算17年間、会員相互が研鑽に努めながら、作品の発表を続けてきた。その間、メンバーにかなりの変化があったが、それだけに多くの先輩をもつことができ、周辺の支援者にも助けられている。そして、会員以外にも、現代美術に情熱をもって取り組んでいる作家やグループがあり、我々に刺激を与え続けてくれている。

今回の受賞は、そのような意味で会員のみならず、現代美術に意欲的な先輩、作家、支援者、鑑賞

者、すべてに与えられたものと受けとめたい。そして、ますます多様化する現代美術の状況をふまえ、会員一同一層の研鑽に努めたいと思っている。



指揮活動に30年

県民オペラ協会
加藤 公康

この度、思いがけなく「功労賞」を頂き大変感激しているが、何か面映い気持ちがないでもない。受賞理由として「長く県民オペラ、大分交響楽団の指揮者として、その育成発展に貢献した」とある。確かに30年以上にわたって指揮活動をしてきたが、私自身は皆といっしょに育ってきた思いがしている。大体、指揮者はステージで唯ひとり音を出さない演奏者。演奏してくれるメンバーがいてはじめて自分の音楽表現ができる存在である。今回の受賞のきっかけは、今年の県民オペラ30周年メモリアル・オペラコンサートと思うが、その折のメンバーはもとより、長年協力してくれた交響楽団、歌い手の皆さんのおかげである。その意味で、そうした人たちに私から感謝状を差し上げたいのが今の心境である。



継続は力なり

県民演劇制作協議会
佐藤 勝良

私の人生に思いもかけぬ出来事が起こった。

それは大分県芸術祭奨励賞を受賞したことである。「なぜ?」大根役者と自負している私は自問自答した。

学者であり、深山の朽木のごとく枯れた帆足万里、70歳を過ぎて脱藩という異常行動に出たのはなぜか、この役どころを果たして演じきれたのかどうか…。まだまだ悔いの残る役づくりであった。

賞に値するのだろうか?

しかし、私は次のように考える事にした。

「継続は力なり」という名言がある。私は北九州での15年間、大分での20年間演劇活動を続けてきた賜だと感激している。

今回の受賞は、すばらしい台本と演出家の中沢氏の指導と県民演劇の仲間との共同作業の結果である。

私は今回の受賞を心から仲間と共に喜びたい。

ありがとう「県民演劇」、ありがとう「仲間達」。

「芸振」100号発行記念

■機関紙「芸振」No.1～No.100巻頭言執筆者一覧

発行年月	No.	巻頭言	執筆者
昭和45. 8	No.1	会の現況と今後の課題	会 長 米田 貞一
45. 10	No.2	第6回大分県芸術祭開幕	副 会 長 辻 英武
45. 11	No.3	美術館はいつできる	県美協会 会長 宮崎 豊 副 会 長
46. 1	No.4	1971年を迎えて県文芸復興の機会	県 詩 会 会長 加藤真一郎 理 事
46. 3	No.5	すぐれた学問芸術と県民性	顧 別 府 大 学 長 佐藤 義詮 問 事
46. 5	No.6	SALZBURG と姉妹都市	副 会 長 千本 延隆 音 協 会 長
46. 7	No.7	大分県の芸術文化行政について —芸術性を尊重し豊かな文化の創造をめざす—	大分県知事 立木 勝
46. 9	No.8	芸振会議の果たす役割	副 会 長 河野 彰
46. 12	No.9	芸術の価値	県美術博物館 建設期会会長 上田 保
47. 1	No.10	大分県人と文化財	理 事 岩田 正
47. 3	No.11	美を求めて	会 長 米田 貞一
47. 7	No.12	初心	会 長 米田 貞一
47. 9	No.13	芸術祭にあたって	県 教 育 長 武田芳太郎
47. 12	No.14	喜劇は終わった 諸君、喝采を……	緑ヶ丘高校長 高橋 寿満
48. 3	No.15-16	芸術の大衆化	大 分 銀 行 竹田支店長 三重野耕治
48. 6	No.17	文芸復興のための一提言	県 教 育 長 山本 峯生
48. 7	No.18	大分市の芸術文化活動の現状と課題	大 分 市 長 市文化協会 安東 玉彦 会 長
48. 8	No.19	山香町の芸術文化施策	山 香 町 長 町文化協理 渡辺 政男 会 長
48. 10	No.20	日田市の芸術文化施策	日 田 市 長 畑 英次郎
49. 2	No.21-22	竹田市の芸術文化施策	竹 田 市 長 佐久間盛夫
49. 6	No.23	夢のようなあの頃	副 会 長 宮崎 豊 県 美 協 会 長
49. 9	No.24	広げることが高めることに	顧 別 府 大 学 長 佐藤 義詮 問 事
49. 12	No.25	当時は苦しみの連続—創立20周年—	県地方史委員長 大分大学教授 渡辺 澄夫
50. 3	No.26	ソロモン裁判—大分と日本最初の洋画—	マリンパルス社長 上田 保
50. 6	No.27	恵まれた文化的土壌を生かして	大分県知事 立木 勝
50. 9	No.28	新しい県民文化の創造	会 長 米田 貞一
50. 12	No.29	大衆芸術指導者への二つの提言 —趣味としての芸術のために—	県 教 育 長 山本 峯生
51. 3	No.30	“夢の舞台”の実現	理 事 大分合同新聞文化部長 宮瀬香多士
51. 6	No.31	県民文化発展の母胎として	会 長 辻 英武
51. 9	No.32	風土と大衆の中に—地域に根ざす文芸活動を望む—	副 会 長 挟間 正年
51. 12	No.33	三者の協調から夢を —地方文化・音楽教育・音楽協会—	副 会 長 辛島 武雄 県 音 協 会 長
52. 3	No.34	芸術の温床は友情である	副 会 長 河野 彰 チャーチル会長

「芸振」100号発行記念

発行年月	No.	巻 頭 言	執 筆 者
昭和52. 6	No.35	芸術振興と県立芸術会館の完成	大分県知事 立木 勝
52. 9	No.36	地域文化活動の発展のために	県教育長 矢野 朔雄
52. 12	No.37	大分を新しい演劇の王国に	顧問 米田 貞一
53. 3	No.38	「倉敷」とまではゆかずともー大分県美術の夢ー	県美協会長 進米 哲
53. 9	No.39	さらに新しい夢の実現へ	会 長 挾間 正年
53. 11	No.40	第14回県芸術祭におもう	副 会 長 宮崎 豊
54. 1	No.41	高校生の文化活動に光を	副 会 長 土屋 元造 高文連会長
54. 3	No.42	「国際児童年」にあたって	県児文研会長 三ヶ尻修二
54. 8	No.43	第3回全国高校総合文化祭開催にあたって	県教育長 江藤 博
54. 10	No.44	第15回大分県芸術祭を迎えて	大分県知事 平松 守彦
55. 1	No.45	大分県の芸術教育について	県芸短学長 首藤萬寿生
55. 4	No.46	80年代の県民文化育成に望む	副 会 長 帆足 敏郎 高文連会長
55. 7	No.47	大分県の芸術文化活動に望む	県教育長 友田 享史
55. 10	No.48	シルク・ロードの旅に思う	顧 問 河野 彰
56. 2	No.49	県民文化育成に望む	副 会 長 糸永 正武 高文連会長
56. 3	No.50	「芸振」50号を記念して	顧 問 米田 貞一
56. 7	No.51	芸術教育と大分県	県芸短学長 井村 洋一
56. 9	No.52	大分土壌と芸術文化	声 楽 家 立川 清登
56. 12	No.53	おおいたの文化創造ーふるさとに若い力をー	シンポジウムより
57. 3	No.54	芸館運営に思う	県芸館長 立木 勝
57. 7	No.55	芸術文化と基金の併行発展を願う	会 長 挾間 正年
57. 10	No.56	小説こぼれ話	栄光園院長 小郷 穆子 九州文学詩と真実同人
58. 1	No.57	高校生のゲルニカ	県民演劇会長 高橋 寿満
58. 3	No.58	ふるさと文学	県図書館長 帆足 敏郎
58. 7	No.59	文化考	事務局長 秋吉 辰郎
58. 11	No.60	安楽志向	副 会 長 佐藤 敏夫 大分舞鶴高校長
59. 3	No.61	就任1年目に思う	県芸館長 友田 享史
59. 7	No.62	地方文化の創造に活力を	事務局長 高塩 至
59. 12	No.63	芸振20周年を迎えて	会 長 挾間 正年
60. 3	No.64	美術作品を見るとき	副 会 長 浜田九一郎
60. 7	No.65	新しい県民文化創造のために	大分県知事 平松 守彦
60. 9	No.66	芸術文化基金主催事業の成果と課題	会 長 挾間 正年
60. 12	No.67	21世紀の文化創造の温床は高校生	副 会 長 嶋津 文雄 高文連会長

「芸振」100号発行記念

発行年月	No.	巻 頭 言	執 筆 者
昭和61. 3	No.68	奈良の古刹に詣でて	副 会 長 宮崎 豊
61. 7	No.69	昭和61年度総会特集—基金事業完全実施スタート—	特集として
62. 3	No.70	芸術祭をふりかえって —第22回大分県芸術祭レポート—	特集として
62. 10	No.71	大分県芸術祭への期待	事 務 局 長 後藤 昭六
62. 12	No.72	県民オペラ20周年にあたって	県民オペラ会長 小長 久子
63. 3	No.73	芸術文化活動の転機	副 会 長 仲町 謙吉 県 美 協 会 長
63. 10	No.74	芸術文化のピラミッド	事 務 局 長 小代 基雍
63. 12	No.75	チャーター会 大分の歩み	顧 問 河野 彰
平成元. 3	No.76	うるおいとやすらぎの—県都大分市をめざして—	大 分 市 長 佐藤 益美
元. 9	No.77	新時代に生きる芸振会議を	事 務 局 長 後藤 正二
元. 12	No.78	25周年記念 県芸術祭に想う	会 長 挾間 正年
2. 3	No.79	これからの芸術祭は特色のあるものに	副 会 長 小長 久子
2. 9	No.80	芸振会議会長に就任して	会 長 仲町 謙吉
2. 12	No.81	高文連創立40周年記念 第15回大分県高校総合文化祭を迎えて	高文連会長 岩田 満之
3. 3	No.82	平成を文化で築く豊の国	事 務 局 長 後藤 正二
3. 9	No.83	芸振会議事務局長に就任して	事 務 局 長 秋葉 正嗣
3. 12	No.84	大分県美術協会会長に就任して	副 会 長 協 正人 県 美 協 会 長
4. 3	No.85	県芸術祭の方向	会 長 仲町 謙吉
4. 9	No.86	大分県立芸術会館長に就任して	館 長 立木 桐子
4. 12	No.87	大分県立芸術文化振興に期待	県芸文短大学長 安永武一郎
5. 3	No.88	県民の活発な芸術文化活動に期待	県 教 育 長 宮本 高志
5. 9	No.89	事業の当たり年・今年をチャンスに	事 務 局 長 末広 利人
5. 12	No.90	芸術文化の振興	大 分 市 長 木下敬之助
6. 3	No.91	芸振30周年を迎えて	名 誉 会 長 挾間 正年
6. 9	No.92	芸術文化活動の振興	県 教 育 長 帯刀 将人
6. 12	No.93	芸振会議副会長に就任して	副 会 長 秋月 睦男
7. 3	No.94	国民文化祭に向かって	会 長 仲町 謙吉
7. 9	No.95	教育長就任にあたって	県 教 育 長 田中 恒治
7. 12	No.96	県民オペライタリア公演を終えて	副 会 長 小長 久子 県 民 オペラ 会 長
8. 3	No.97	演劇α創出～役者バカの世界～	副 会 長 中沢とおる 県 民 演 劇 代 表
8. 9	No.98	事務局長に就任して	事 務 局 長 後藤 一郎
8. 12	No.99	一流をめざす心意気	ピアニスト 伊藤 京子
9. 3	No.100	「芸振」第100号発刊記念に寄せて	会 長 仲町 謙吉



祝「芸振」100号を記念して

特別会員 菅 久

県芸術文化振興会議は昭和39年に発足した。当時は県芸術祭を開くための推進母体として年に数回の文化団体代表者が集まって協議する平凡な連絡会であった。

昭和45年に選出された米田貞一会長は、「芸術祭のためだけの芸振から一步前進して平常活動をした」と考えていた。会長の意向を受けたのか、その時理事であった仲町謙吉県美協事務局長と大分合同新聞社の宮瀬香多士文化部長の二人から「今後の芸振は役所まかせでなく、せめて名前だけでも文化団体中からの事務局入りが必要」とし、「最も大きな団体の県美協と県音協から各1名の芸振事務局次長をつくるべき」と聞かされた。結局美協の事務局次長をしていた私と、県音協の北村宏通事務局長が説得された。

その翌日、さっそく芸振事務局の県教育庁社会教育課文化係長から電話があり「事務局次長の2人には機関紙と文化年鑑の編集をお願いします」と言ってきた。形だけの肩書きでなく実務者としてその年の8月、私は機関紙「芸振」第1号を発行した。以来25年間を芸振事務局次長、事務局担当理事、常任理事として、大半を編集業務中心の仕事にかかわった。このたび機関紙「芸振」100号特集を知り、まことに感慨深いものがある。

ところで、10年前の理事時代に「芸振」50号記念特集を藤原嘉久事務局次長が編集発行したが、その時1号から50号までの索引を私がまとめた。この労作号を見ると、初回の45年度は5回、翌年は6回も発行している。その頃の機関紙は特集号が多かった。「芸術教育」号や「県立美術館建設促進」号など、ユニークな企画に付録までつけ、九州各県一覧表をつけた。編集に情熱を傾けた若き日々を思い出す。

50号記念の索引でバックナンバーをめくると、そこには大分県の芸術文化活動の変遷やエポックが手をとるようにわかる。100号記念号も51号から100号までの索引にすれば便利で面白いと思ったが、近年は財政が逼迫し、芸術文化基金の運用もままならない。機関紙発行も年3回と節減された上に役所や事務局の仕事が多忙を極めているのがまことに残念である。

最後に歴代の編集実務者の努力と現在もなお業務を担当している十時 良、中野幸和両常任理事並びに佐藤智信事務局次長に深く敬意を表するとともに、来年の国民文化祭の機関紙「芸振」特集号に心からエールを送りたい。



第1回“県芸術祭”の思い出

特別会員 宮 瀬 香多士

県教委社会教育課の呼びかけで、県下の芸術文化団体の関係者が集まった。これが「大分県芸術文化振興会議」（県芸振会議）第1回の会合。昭和39年12月26日であった。この会がきっかけで「昭和40年度から県芸術祭を開く」ことになった。こうして、この日から会合を重ね「大分県芸術文化振興会議」が生まれることになったわけだ。

第1回県芸術祭の記念音楽祭は昭和40年の10月9日に、立川清登さんを迎えて別府国際観光会館（現トキハ別府店の場所）で開かれることになった。合唱団は藤沼恵さんの指揮でショスタコヴィッチの「森の歌」の抜粋曲を演奏することになった。練習会場は大分市荷揚町小学校の講堂である。

練習が始まって1週間ぐらいたったころだったか、鷺尾正昭・県社会教育課長、進恒夫文化係長が練習会場に集まっていた役員らに校長室に集まってもらい、鷺尾さんが「森の歌」は全曲演奏をしたらどうだろうという提案をした。私は全曲演奏ができれば、それにこしたことはないと思ったが、念のため「全曲演奏しても時間的に大丈夫か」聞いてみた。鷺尾さんは「時間的に大丈夫だし、せっかくやるのだから全曲やった方がいいのではないか」と答えた。時間的に問題なければ全曲演奏するにこしたことはない。こうして「森の歌」の全曲演奏が決まった。

公演当日、私も会場の別府国際観光会館ホールにいた。たしかプログラムの最後だったと思うが「森の歌」の大合唱が高らかに歌い上げられた。聴衆は大きな拍手を贈った。私の胸にも深い感動があふれた。最後に立川さんの指揮で舞台と会場一体となって「荒城の月」の大合唱をした。いま考えてみると、その演奏と拍手が、その後の県芸術祭の原点になったものと思われるくらいだ。

私は昨年11月に上京した折、10数年ぶりに鷺尾さんに会った。お互いに60代の半ばを過ぎるころになっている。30代の半ばから続いている交友は30数年に及んでいる。私は県芸術祭というものを通して、1人の語り合える友を得たと思っている。（当時の大分合同新聞文化部長）

事務局だより

「文化を語る夕べ」盛大に開催

平成8年度の「文化を語る夕べ」が去る12月16日午後6時から、大分県共同庁舎13階レストランぶんに243人が集い、盛大に開催された。1年に1回の文化団体の交流・親睦の場として開催して、早や本年で第11回目を迎えることになりました。

はじめに仲町会長が挨拶、続いて平松知事がお祝いのご挨拶、続いて会員の秋の受章(彰)者・県芸術祭賞受賞者の紹介並びに海外派遣研修者の紹介を行った。

自由歓談となり、本年の芸術文化活動などについて和やかに懇談した。

平成9年度 日本芸術文化振興 基金助成金の要望書提出

地域文化施設公演・展示活動事業として1団体、アマチュア等の文化団体活動事業として2団体、民俗文化財の保存活用活動事業として2団体、計5団体がこのたび要望書を提出した。

基金運営協議会開催

芸術文化基金事業の円滑な運営をはかるため、芸術会長の諮問機関として設置されている基金運営協議会の新しい委員が、下記のとおり決まりました。

そしてさる3月4日、平成8年度の基金運営協議会が開催され、平成9年度事業概要などについて審議が行われ、諮問どおり答申が行われた。

大分県芸術文化振興会議基金運営協議会委員一覧表

現 職	氏 名	勤務公署名
大分経済同友会代表幹事	安藤 昭三	大分銀行
大分合同新聞社常務取締役	江藤 嘉美	大分合同新聞社
大分県立芸術会館長	立木 稠子	大分県立芸術会館
大分県小・中学校長協議会会長	土江 弘文	大分市立上野・丘中学校
国際ソロフチミスト大分会長	若杉 順子	大分県環境保全協議会委員
大分県中小企業団体中央会会長	山崎 正巳	株式会社 三信工業
大分県立芸術文化短期大学学長	安永武一郎	大分県立芸術文化短期大学
大分県商工会議所連合会会長	吉村 益次	株式会社 タイコー
大分県企画総室長	友永 清	大分県庁
大分県教育委員会教育長	田中 恒治	大分県教育委員会

(順不同)

芸振補助事業で開催される計画行事(予定)

平成9年4月～9月

※個人会員証で鑑賞しましょう

行 事 名	開 催 月 日	会 場	主 催 団 体
大分県子ども舞台芸術フェスティバル	4月～8月	県 内 各 地	大分県子ども劇場連絡会
滝廉太郎音楽コンクール	4月10日～5月30日 6月10日～7月10日 8月中	大分県立芸術会館	大分県音楽研究会
若柳流春のおどり	4月13日	大分能楽堂	若柳流大分県協会
春の地方演奏会	4月26日	白杵市民会館	大分大学マンドリンクラブ
第16回大分県バイオリン子ども合奏大会	4月29日	大分県立芸術会館	大分ジュニアオーケストラ
第21回定期演奏会	5月3日	大分文化会館	大分交響楽団
大分県短歌大会	5月18日	大分文化会館	大分県歌人クラブ
'97春季県美術展	書道5月13日～5月18日 写真5月20日～5月25日 美術5月27日～6月1日	大分県立芸術会館	大分県美術協会
第20回全日本おかあさんコーラス九州大会	5月25日	鹿児島市	エリカフラウエンコール・明賢レディスコーラス
第22回九州マンドリンフェスティバル	7月6日	福岡市民会館	大分マンドリンオーケストラ
第21回大分県マンドリン連盟フェスティバル	7月13日	大分南部公民館	大分マンドリン連盟
第21回行動大分作品展	7月15日～20日	大分県立芸術会館	行動大分作家協会
10周年記念コンサート	7月19日	コンパルホール	アンサンブルラ・メール
'97大分自由美術展	7月23日～27日	大分県立芸術会館	大分自由美術
'97大分二紀展	8月中旬1週間	大分県立芸術会館	大分二紀会
第10回大分県少年少女合唱祭	8月下旬	大分県立芸術会館	大分県少年少女合唱連盟
第52回九州合唱コンクール	9月中	大分文化会館	大分市民合唱団ウイステリアコール

新 会 員 紹 介

■団体会員

番号	団体名	事務局所在地	代表者氏名及び住所		事務局長氏名及び住所		団体の目的	会員数	設立年月日	設立後の経緯
			氏名	住所	氏名	住所				
美術25	臨書創作教育研究協議会		荒金大琳		荒金節子		書道の中国・日本の古典の臨書を通じて創作への実践教育と書教育の研究協議	正会員15名 準会員20名	平成3年 4月1日	展覧会の実施と充実に 務め書教育活動の実践 につとめている。

■個人会員

番号	氏名	〒	住 所	電 話	番号	氏名	〒	住 所	電 話
219	荒金 大琳				220	荒金 節子			